

28	兵庫県立須磨東高等学校	H28~R1
----	-------------	--------

令和元年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

法的思考力・判断力を社会人として求められる基礎的な素養として、これを身につけた人材育成を目指す。本校では、法的思考力・判断力をより広義に捉え、物事を多面的に捉える力、公正に判断する力、法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす力と位置づける。これに向けて、公民科を再編成して「メディア研究」（必修科目）「リーガルマインド」（選択科目）を設置するとともに「総合的な学習の時間」の学習内容と指導方法、評価方法について研究開発を行う。また、研究において、社会的な課題を発見する活動、解決に向けた探究活動を行うことにより、新設科目「公共」（仮称）の内容開発に資することも視野に入れる。

2 研究の概要

公民科学校設定科目「メディア研究」（1年生必修履修）を新設し、「総合的な学習の時間」（現「総合的な探究の時間」）に「リーガルマインド基礎」（1年生必修履修）を置く。併せて「リーガルマインドⅠ」（2年生選択）、「リーガルマインドⅡ」（3年生選択）の四つの科目をとおして「市民性としてのリーガルマインド」がどう育成されるかを、次の方法により検証する。

- ① 現行の高等学校学習指導要領における公民科「現代社会」を分析・検証し、「市民性としてのリーガルマインド」に必要な公民学習を再構成する。
- ② 「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」のカリキュラム開発・授業開発を行う。
- ③ 平成30年告示の高等学校学習指導要領に示された各教科・科目との関連について、分析する。
- ④ 「市民性としてのリーガルマインド」が育成されたかどうかについて、評価・検証を行う。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

本研究では、この「市民性としてのリーガルマインド」を育成することを目的とし、次の三点を研究仮説とした。

- ① 「市民性のリーガルマインド」についての資質・能力を具体化・構造化した上で、それらを踏まえて公民科学校設定科目を新設するとともに、「総合的な学習の時間」（現「総合的な探究の時間」）を再構成する。それらの科目のカリキュラム開発・授業開発を行い、授業実践することで、18歳段階で求められる資質を育成することができるのではないかな。
- ② 新設科目の目標や内容と、平成30年告示の高等学校学習指導要領の目標や内容の関連を分析することをおして、令和4年度に向けてのカリキュラムや授業の改善に資することができるのではないかな。
- ③ 生徒・教員・卒業生・保護者を対象にアンケートを実施し、それらを分析する

ことで、「市民性としてのリーガルマインド」が育成できたかどうか、評価・検証することができるのではないかと。

(2) 教育課程の特例

必履修科目である公民科「現代社会」2単位のうちの1単位を減じ、公民科学校設定科目として「メディア研究」を新設した。

表1 「メディア研究」と「現代社会」の目標・内容

教科	科目	目標	内容
公民科	メディア研究(1単位)	見識ある市民になるための市民性を養う。	(1) 様々なメディア ア メディアの送り手と受け手 イ メディアの発達と社会 (2) メディアと民主主義 ア 統計の読み方 イ 資料を活用した議論 ウ メディアと政治
	現代社会(1単位)	良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 高等学校学習指導要領(平成21年告示)	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ア 青年期と自己の形成 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 (3) 共に生きる社会を目指して

4 研究開発の内容

(1) 教育課程の内容

① 「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力

「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力を、次の表2のように整理した。

表2 「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力

育成すべき資質・能力	育成すべき資質・能力の具体
社会人基礎力	a. 自分の役割を果たしつつ、他者と協力する態度 b. 公正・公平に価値判断をする力、物事を多面的に捉える力 c. 様々な情報を適切に取捨選択する力 d. 法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度
キャリア形成力	a. 主体的に社会に参画する態度 b. 「働くこと」の意義を理解する力
課題解決力	a. 社会の様々な課題を抽出し設定する力 b. 課題について整理・分析し、調査する力 c. 課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力 d. 協働的に追究し解決する態度 e. 解決したことをまとめて表現する力
統合的構想力	a. 意思決定のプロセス(現状分析・課題の抽出、解決策の

	提案) を自ら踏むことができる力 b. 継続的な対話や協働をとおして自ら納得解を得る力
--	--

次に「市民性としてのリーガルマインド」で育成すべき資質・能力を構造化すると、次の図1のようになる。

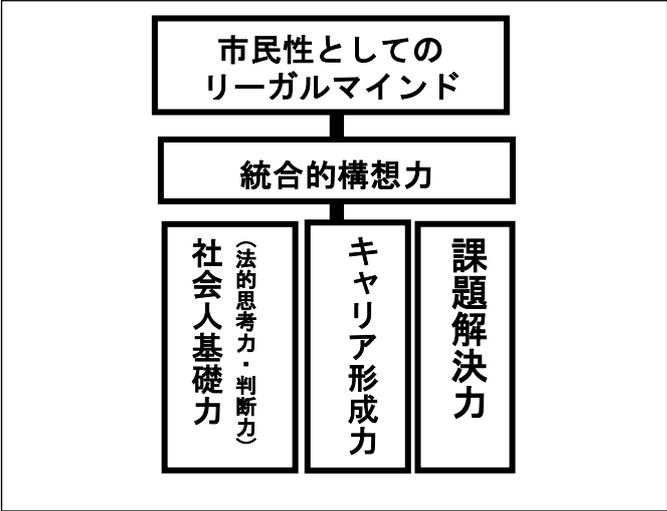


図1 「市民性としてのリーガルマインド」のための育成すべき資質・能力とその構造

これらの育成すべき資質・能力に照らし合わせて、科目・単元ごとに評価規準を設定し、評価を行う。

②「市民性としてのリーガルマインド」育成のための科目における目標と内容

各科目（「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」）と、それらを履修する学年を、次の表3に示す。

表3 研究開発科目と学年

学年	科目名	時間数
1年生（必履修）	メディア研究	1時間
	リーガルマインド基礎	1時間
2年生（選択履修）	リーガルマインドⅠ	1時間
3年生（選択履修）	リーガルマインドⅡ	1時間

前記の四つの科目の目標と内容を、次に示す。

【1年次】

「メディア研究」

- 目標
- ・メディアの発達と社会がどのように関わっているか理解する力
 - ・メディアが持つ豊かな可能性のもと主体的にメディアにアクセスし発信する力
 - ・さまざまな社会事象に対する見方、考え方を豊かにし、自分がメディアを通じて社会とどのように関わっているのかを意識する力
 - ・統計情報や様々なテキストを社会的文脈でクリティカルに分析する力

- ・さまざまな立場から発信された情報に批判的にアクセスし、事象の本質を理解する力

内容 (1) 様々なメディア

ア メディアの送り手と受け手

様々なメディアから発信される情報を評価し、識別する活動を通じて、発信者の意図の読み取り、受信者としてのあるべき態度を理解する。

小項目として「情報を受け取る」「情報を発信する」「グラフのミカタ」を設定した。

イ メディアの発達と社会

メディアの発達が社会に与える影響を、その効果や危険性をとおして理解を深める。また、メディアと社会の未来を予測することを通じて、メディアと自分の関わりについて考察する。

小項目として「多様な意見とメディアの役割」を設定した。

(2) メディアと民主主義

ア 統計の読み方

統計データ等の客観的な資料を用い、前提となる知識を共有した上で、根拠を持って思考・判断・表現する力を高める。

小項目として「記事が訴えること」を設定した。

イ 資料を活用した議論

メディアに掲載された記事から民主主義について考え、学んだ知識を用いて考えを根拠立てて説明する力を高める。その際前提となる知識の確認、必要な情報の抽出・分類・比較等を行い、思考・判断・表現の根拠とすることとする。

小項目として、「税から地方自治を考える」を設定した。

ウ メディアと政治

メディアと政治権力や基本的人権との関係を追究することをとおして、メディアにアクセスしながら、自分と社会をつなぎ、社会制度を構想する力を育成する。

小項目として「メディアと政治参加の意義」などを設定した。

「リーガルマインド基礎」

- 目標**
- ・協働して課題解決を図る学習をとおして、チームで働くことの意義を知り、意見を述べ議論する力
 - ・さまざまな立場の人に学ぶことをとおして、他者を尊重しながら主体的に人とつながりを結ぶ力
 - ・法教育、市民教育などをとおして、法や規範が共同体の中で果たしている目的や役割を理解する力
 - ・様々な情報を適切に利用することで物事を合理的に解釈し、公正・公平に判断してより良い未来を考える力

内容 (1) 他者と繋がり、合理的に物事を考える

ア 自分から社会につながる

「働くこと」を題材に、社会人へのインタビューや社会人の講演会を通して、自分がどのようにあり、どのように生きるかを主体的に考察する。

小項目として「職業人インタビュー」「職業人に学ぶ」を設定した。

イ 「合理的」に考えるスキルを身につける

様々な事例や報道を題材に、多面的に考え、合理的に判断するための基礎的な手法を学習する。また、インタビューなどの場面で習得したスキル

の活用に取り組む。

小項目として「ラテラルシンキング」「質問する力を磨く」「社会について考える」を設定した。

(2) 公平・公正・正義の感覚を磨く

複数の人間が対立している状況や、1つの状況に複数の立場が想定される状況を設定し、そこから争点を整理させ、他者との議論を通じて対立利益も踏まえながら解決策を考察する。

小項目として「公平について考える」「公正や正義を考える」「正義について考える」「ギターが壊れた！」を設定した。

【2年次】

「リーガルマインドⅠ」

- 目標**
- ・法的な思考力・判断力、法の目的や法が社会の中で果たしている役割を理解する力
 - ・法的な解決策の全体プロセスを考察し、問題解決の妥当な結論を判断し、結論に対する評価が行える力
 - ・グローバル化、ローカル化する社会の中で、自己が果たすべき社会的責任を自覚する力
 - ・共同体へ主体的、積極的に参加しようとする力
 - ・地域の問題や行政課題に対する政策的リテラシー

内容 ア 法と私たち

法や司法制度、また、これらの基礎になっている価値を理解し、社会の中で法が果たす役割や存在している意味について考察する。また、身近なところに存在する社会の矛盾を探しだし、他者と協働しながら解決法を考え発表する。

イ 模擬裁判

社会の中での紛争解決のあり方を理解し、法的思考力・判断力を高めるために刑事事件を事例として模擬裁判を体験する。

ウ 課題研究に向けて

リーガルマインドⅡで行う課題研究に向けて、論文作成に必要な主張の理由と根拠とはどのようなものであるか、それらを確認するための方法について学習する。また、学習した内容を踏まえて図書館等を利用させ、社会的課題の収集をする。

【3年次】

「リーガルマインドⅡ」

- 目標**
- ・1年次、2年次に育成された資質・能力である「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」を、「自ら」活用する「統合的構想力」を育成する。

内容 ア 卒業論文

3年間の学校生活を通じて習得した内容をふまえた探究に取り組む。生徒の興味・関心等に応じた社会的課題を見いだし、資料の収集、分析などをおして主体的に研究し、その過程において法的思考力・判断力及び表現力を高める。

イ 未来探究

1年生で学習した「メディア研究」と関連付けて、メディアの役割や進歩

と、未来の社会の在り方について、班ごとに課題を設定して探究学習を行い、研究成果を発表する。

各科目と、「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力の関係を、次の図2に示す。

学年		1年生(全員)									1年生(全員)					2年生類型生徒						3年生類型生徒	
科目名		リーガルマインド基礎									メディア研究					リーガルマインドⅠ						リーガルマインドⅡ	
育成すべき資質・能力		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)
		コンセンサスゲーム	公平について考える	質問する力を磨く	職業人インタビュー	講演会	正義について考える	職業人に学ぶ	法教育講演会	キターが壊れた!	メディアの送り手と受け手	メディアの発達と社会	統計の読み方	税から地方自治を考える	メディアと政治	法と私たち①	法と私たち①～⑨	裁判傍聴	模擬裁判①～⑩	地域社会に学ぶ	課題探究に向けて	課題探究	未来探究
社会人基礎力	a 自分の役割を果たしつつ、他者と協力する態度	■	■	■																			
	b 公正・公平に価値判断をする力、物事を多面的に捉える力					■	■																
	c 様々な情報を適切に取捨・選択する力																						
	d 法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度																						
キャリア形成力	a 主体的に社会に参画する態度																						
	b 「働くこと」の意義を理解する力																						
課題解決力	a 社会の様々な課題を抽出し設定する力																						
	b 課題について整理・分析し、調査する力																						
	c 課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力																						
	d 協働的に追究し解決する態度																						
	e 解決したことをまとめて表現する力																						
構想的・統合的	a 意思決定のプロセス(現状分析・課題の抽出、解決策の提案)を自ら踏むことができる力																						
	b 継続的な対話や協働をとおして自ら納得感を得る力																						

図2 「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」と育成すべき資質・能力

③高等学校学習指導要領(平成30年告示)と研究開発科目の関連

本研究における「リーガルマインド基礎」、「メディア研究」、「リーガルマインドⅠ」、「リーガルマインドⅡ」の目標や内容と、次期学習指導要領の目標や内容について、分析・検証した結果、研究開発科目は、「総則」、「公共」、「情報」、「総合的な探究の時間」、「特別活動」等との関連性が特に高いことがわかった。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一年次	文部科学省、運営指導委員会の指導・助言を受け、次の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒のリーガルマインドや社会参加についての意識調査の実施。 1年生「リーガルマインド基礎」(必修)、2年生「リーガルマインドⅠ」(選択履修)の一部を先行実施し、課題を抽出。 新科目「メディア研究」検討会(教科研修3回)開催。 運営指導委員会(3回)開催。 公開授業(11月)実施。 協力外部機関との調整。 先進校等視察による調査研究。
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> 「メディア研究」、「リーガルマインドⅡ」の目標、内容、単元構成、指導計画の策定と教材開発。 「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」

	<p>「リーガルマインドⅡ」の評価規準を策定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査の実施、検証。 ・運営指導委員会(3回)開催。 ・公開授業(2月)実施。 ・協力外部機関との調整。 ・先進校等視察による調査研究。
第三年次	<p>第二年次の成果と課題に基づき改善した。実施内容の評価と検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査の実施、検証。 ・「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」の目標、内容、単元構成、指導計画と評価の指標方法の改善。 ・研究協議会の実施。 ・運営指導委員会(2回)開催。 ・公開授業(11月)の実施。 ・協力外部機関との調整。 ・先進校等視察による調査研究。
第四年次	<p>第三年次の成果と課題に基づいて改善した。実施内容の評価と検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の構造化。 ・構造化された資質・能力と「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」の各単元との関係の可視化。 ・平成30年告示高等学校学習指導要領と、「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」の関連性を検証。 ・新科目の目標、内容、単元構成、指導計画と評価の指標、方法の総括。 ・運営指導委員会(2回)開催。 ・公開授業(10月)実施。 ・協力外部機関との調整。 ・報告会(於 兵庫県高等学校教育研究会社会(地理歴史・公民)部会)の実施。 ・先進校等視察による調査研究。

(3) 評価に関する取組

	実施内容等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全員が「リーガルマインド基礎」を履修していることから、4月(学習前)と3月(学習後)にアンケート調査を実施。 ・2年生の「リーガルマインドⅠ」選択者に対して4月(学習前)と3月(学習後)にアンケート調査を実施し、「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力が育成されているかどうか、評価・検証。
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全員が「メディア研究」「リーガルマインド基礎」を履修していることから、4月(学習前)と3月(学習後)にアンケート調査を実施し、「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力が育成されているかどうか、評価・検証。 ・1年生全員に「学びみらいPASS」を実施し、リテラシー・コンピテンシーを評価・検証。 ・2年生「リーガルマインドⅠ」選択者に対して、4月(学習前)と3月(学習後)にアンケート調査を実施。 ・3年生の「リーガルマインドⅡ」選択者に対して4月(学習前)と12月(学習後)にアンケート調査を実施し、「市民性としてのリーガルマ

	インド」のための資質・能力が育成されているかどうか評価・検証。
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全員に、4月と3月にアンケート調査を実施。 ・2年生「リーガルマインドⅠ」選択者に対して、4月と3月にアンケート調査を実施。 ・1・2年生全員に「学びみらいPASS」を実施し、評価・検証。 ・3年生の「リーガルマインドⅡ」選択者に対して、4月と12月にアンケート調査を実施。
第四年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全員に、4月と3月にアンケート調査を実施。 ・2年生「リーガルマインドⅠ」選択者に対して、4月と3月にアンケート調査を実施。 ・3年生の「リーガルマインドⅡ」選択者に対して、4月と12月にアンケート調査を実施。 ・1・2・3年生全員に「学びみらいPASS」を実施し、評価・検証する。 ・2017年度・2018年度の卒業生（「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」選択者）に対して夏休み（8月）にアンケート調査を実施し、「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力が育成されているかどうか、評価・検証。 ・教員に対して10月にアンケートを実施し、生徒が「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力を示した場面に関するエピソードを集め、育成状況を評価・検証。 ・保護者に対して、学校評価と合わせて11月にアンケートを実施し、生徒に「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力が育成されているかどうか、評価・検証。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

39回生(2018年度卒業)から41回生(2019年度2年生)まで、毎年年度末に「市民性としてのリーガルマインド」のために必要な資質・能力（「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」）が育成されているかアンケート調査を実施した。次の表4は、「あてはまる」「割とあてはまる」と回答した生徒の割合を示したものである。

表4 「市民性としてのリーガルマインド」に関する資質・能力アンケート

回生	学年	社会人基礎力			キャリア形成力			課題解決力		
		自分の役割を果たしつつ他者と協力する態度	公正、公平に価値判断する力、物事を多面的に捉える力	様々な情報を取捨・選択する力	法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度	主体的に社会に参画する態度	「働くこと」の意義を理解する力	社会の様々な課題を抽出し設定する力	課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力	解決したことをまとめて表現する力
41回生	1年生(280名)	86	84	68	39	31	23	67	68	48
	1年生類型(28名)	89	71	71	54	47	21	60	67	57
40回生	1年生類型(29名)	93	83	80	38	42	31	79	76	69
	2年生類型(29名)	93	82	89	45	38	31	76	83	58
39回生	2年生類型(29名)	93	86	94	57	64	57	87	90	87
	3年生類型(29名)	96	96	89	58	55	31	86	89	65

1年生の時よりも3年生では「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の多くを身につけていると実感している生徒が増加していることがわかる。

しかし、3年間通じて「社会人基礎力」のうちの「法を活かして社会の調和を保ち

ながら暮らす態度」と、「キャリア形成力」（社会参画や、「働くこと」の意味を理解する力）の数値が他に比べて低いことがわかる。

一方、リーガルマインド類型卒業生1期生25名、2期生30名、合計55名を対象に、2019年7月から8月にかけてアンケート調査を実施したところ、22名（40%）の回答を得た。その中で「類型でどのような学習をしていれば今の研究や仕事に役立つと思いますか。」と質問したところ、「社会参画」や「課題解決」、「法に関する学習」を指摘する回答が多かった。しかし、「研究開発のため」、「後輩たちのため」にアンケート調査に協力する卒業生の姿は、十分に「社会参画」の力を発揮していると考えられる。

また、次の図3に示したように、39回生3年生類型(29名)の「課題解決力」のうちの「解決したことをまとめて表現する力」については、「あてはまる」と回答した生徒が、2年生末と比べると20%から34%に増加しているのに対して、「あまりあてはまらない」と回答した生徒は、2年生末と比べると13%から31%に増加しており、二極化していることがわかる。

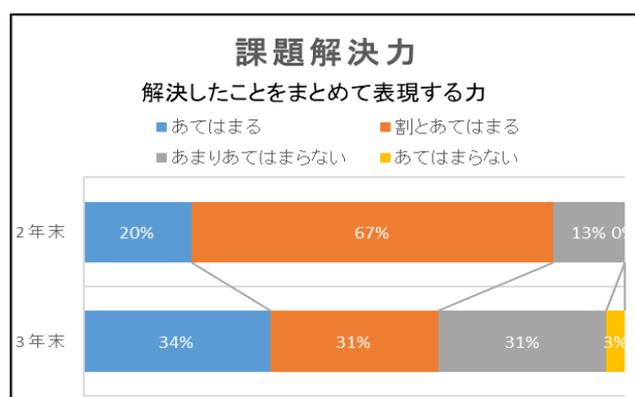


図3 39回生(29名)リーガルマインド類型生徒アンケート2年生末・3年生末比較

3年生における学習が「卒業論文」の執筆や「未来探究」など、「自ら」課題意識を持って探究し、それらを表現する活動であり、これは本研究で設定している「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力のうちの「統合的構想力」の育成を目指すカリキュラムである。それに対して、「できた」と実感する生徒が増えた一方で、「難しかった」と感じる生徒も一定数いたということである。

さらに、本校教員に対して、今年度(2019年度)10月に研究開発に関するアンケート調査を実施した。その中で「本校が研究開発指定を受けたことで、ご自身の意識に変容がみられましたか。」とたずねると、回答の中に「授業改善の必要性に気づかされたが、小さな試みでとどまってしまい、まだまだ何もできてはいない。」というものがあった。意識の変容の必要性には気づいたものの、まだ動き出せていない、あるいはどうすればよいかわからない教員の存在が明らかになった。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

①実施上の問題点

- ・異動の多い公立の普通科高校にあって、どのように組織的かつ継続的に研究をすすめていくかが課題であった。

②今後の課題

今後の課題は次の四点である。

- ・「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力について。
生徒が「課題解決」に関わる「社会参画」するための学習とそれにもなう積極的な発信の機会、「法に関する学習」の機会を増やすとともに、「キャリア形成力」を育成する取り組みを今以上に行う。さらに「統合的構想力」について、どのようなカリキュラムにすれば生徒が力をつけたと実感できるのかを検討する必要がある。
- ・職員室内で気軽にリーガルマインドについて話したり、各自の授業に活用したりすることができるように、研究内容についての掲示をするとともに、指導案等を閲覧しやすいようにデータの整理を行う。
- ・今後卒業生が社会に出た時、成長を実感できるカリキュラムであったかどうかを長期的なスパンで検証する。
- ・四つの科目を今後も継続的かつ発展的に研究するとともに、他の科目においても、「市民性としてのリーガルマインド」の資質・能力の育成に向けた授業開発を行うとともに、学校全体のカリキュラム・授業の改善のきっかけとする。

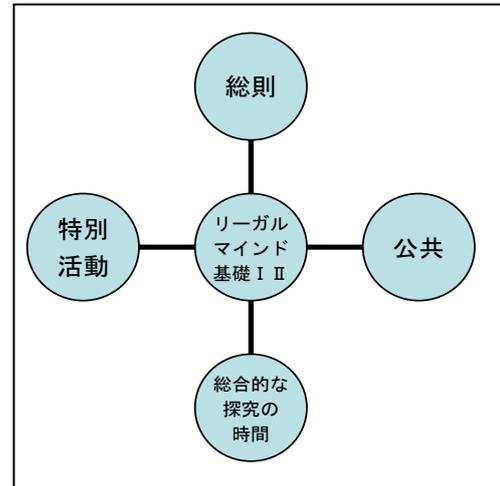
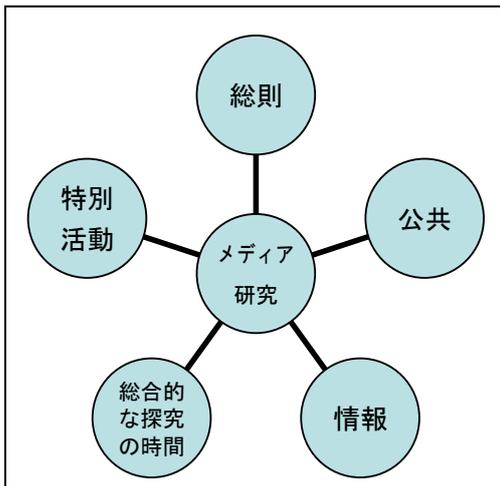
研究の概要

1 教育課程と育成すべき資質・能力の関係

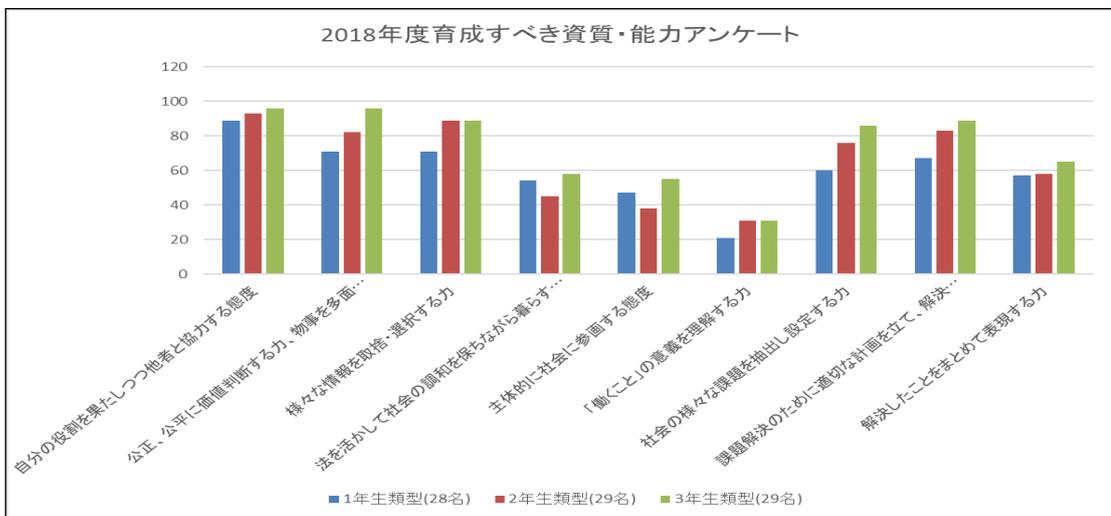
学年	科目名	時間数	育成すべき資質・能力
1年生（必履修）	メディア研究	1時間	「社会人基礎力」 「キャリア形成力」 「課題解決力」 ↓ 「統合的構想力」
	リーガルマインド基礎	1時間	
2年生（選択履修）	リーガルマインドⅠ	1時間	
3年生（選択履修）	リーガルマインドⅡ	1時間	「統合的構想力」

「市民性としてのリーガルマインド」

2 「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」の目標と平成30年告示高等学校学習指導要領における各科目の目標との関連



3 「市民性としてのリーガルマインド」に関する資質・能力アンケート結果



1～3年生類型生徒 「あてはまる」「割とあてはまる」と回答した割合

須磨東高等学校 教育課程表(令和元年度)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	国語総合					現代社会	メディア研究	数学 I			数学 A	物理基礎	化学基礎	体育	保健	音楽 I 美術 I 書道 I	コミュニケーション英語 I		英語表現 I	家庭基礎	情報の科学	総合	L H R									

※総合：「リーガルマインド基礎」として実施

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文型	現代文 B	古典 B		世界史 A	日本史 B		世界史 A	数学 II			生物基礎	数学 B	選択 M	体育	保健	コミュニケーション英語 II		英語表現 II	L H R	リーガルマインド I												
理型	現代文 B	古典 B	世界史 A	地理 B	数学 II			数学 B	地学基礎	化学	地学基礎	生物基礎				物理	体育	保健	コミュニケーション英語 II		英語表現 II	L H R										

※リーガルマインド I は選択科目

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文型	現代文 B	古典 B		日本史 B		世界史 B	体育			コミュニケーション英語 III			英語表現 II	選択 10 単位 (2 単位 × 5 科目)					総合	総合	L H R	リーガルマインド II										
理型	現代文 B	古典 B	地理 B	総合数学 γ 2			選択	化学	物理	体育	コミュニケーション英語 III		英語表現 II	総合	総合	L H R																

※リーガルマインド II は選択科目

学校の概要

- 1 学校名 ヒョウゴケンリツスマヒガシコウトウガッコウ
兵庫県立須磨東高等学校
- 校長名 アツタ タカシ
厚田 太加志
- 2 所在地 兵庫県神戸市須磨区東落合 1-1-1
- 電話番号 078-793-1616
- FAX番号 078-793-1617

3 課程・学科・学年別生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	239	6	276	7	272	7			787	20
計		239	6	276	7	272	7			787	20

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	0	1	0	0	44	0	1	0	0	10
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	5	0	65						